

社会福祉法人 京都視覚障害者支援センター
平成 26 年度 事業報告

目 次

I 法人概況	1
1 はじめに	1
2 重点目標に対する達成評価	1
3 各部門の事業概況	3
II 各部門別報告	6
A. 障害者支援施設「洛西寮」	6
1. 生活介護「ちくりん」	6
2. 就労継続支援B型「らくさい作業所」	7
3. 施設入所支援（夜間支援）	8
【各サービス内容】	9
1. 健康管理	9
2. 食事の提供	10
3. 歩行訓練	11
4. 余暇活動支援（共通の活動）	11
5. 買い物支援サービス	12
6. ボランティア支援サービス	12
B. 三療事業部	13
1. 盲人ホーム 美鈴	13
2. 就労継続支援A型「らくさい治療院」	15
C. 法人	16
1. 事務局	16
2. 点字出版施設「紫野点字社」	19
3. 京都府中途失明者巡回生活指導員派遣事業	20
4. 指定特定相談支援事業「障害者相談支援事業所 スマイルサポート」	21
5. 主催行事	22
6. 共催事業	25

I 法人概況

1 はじめに

国の障害者差別解消法が平成 28 年度から施行されようとする中、障害者の福祉サービスの提供の目安となる障害支援区分が実施されて 1 年が経過しました。

昨年度末に批准された「障害者権利条約」のながれは、京都府において、平成 27 年 4 月から「障害のある人もない人も共に安心していきいきと暮らせる京都づくり条令」として施行されるなど、障害者の人権を守る仕組みづくりが大きく進展しました。

視覚障害の分野では、京都における視覚障害福祉サービスの拠点づくりの動きとして本法人との関係で二つの事業展開が注目されます。

一つは、新船岡寮（盲養護、特養、短期入所、デイサービス等を有する施設）が京都ライトハウスによって市内中京区に新設される見通しが明らかになったことです。平成 28 年度当初には竣工・オープンがほぼ確実となり、高齢化する洛西寮利用者の有力な進路先として大いに期待されます。

二つには、京都府城陽市に京都府視覚障害者協会が設立する「南部アイセンター」の建設実現です。本法人が京都府から受託する「京都府中途失明者巡回生活指導員派遣事業」の相談拠点として、南部地域における視覚障害者の社会参加の場として期待されます。

本法人は、法人名称変更後 3 年を経過し、現時点で 3 事業所・6 事業を運営する法人に成長してきました。引き続き、「いつまでも働き続けられる事業所」を目指して、地域に見守られる法人として前進して行きます。

2 重点目標に対する達成評価

年度当初に掲げた八つの目標に対して取り組みの到達点を明らかにしてみたいと思います。

1. 法人の将来検討に向けて（主要 4 課題を踏まえて）

・財政健全化対策については、今年度から向こう 5 年間を見通した職員給与表の見直し、厨房の外部委託などを掲げて取り組みました。しかし、予期せぬ施設設備の故障や備品の更新時期などによる緊急不可欠な出費から、当初の計画通りには進展しませんでした。

・安全・安心対策（休日・夜間の危機管理対策）では、夜間支援員の複数体制を目標に取り組みましたが、平均の障害程度区分が中程度であることから、報酬単価が支援員確保の人件費に届かず、京都市への要請も実を結ばず、実現の見通しを得ぬまま今年度を終えることとなりました。

・後継者対策は、来年度を次の世代へ引き継ぐ 1 年として位置づけると共に、引き続き法人の最重要課題として継続します。

・新中長期計画の策定については、来年度に洛西寮創立 30 周年を迎えるところから、それをきっかけにした将来検討の準備と、記念事業実行委員会の立ち上げに着手しました。

2. 事業の活性化と情報発信

- ・ 検討課題別のプロジェクトチームの結成

「静養室の新設」

「コミュニティーサロン機能を持った交流スペースの検討」

「利用者家族会の結成」

の3テーマを掲げて職員会議を中心に議論の場を持ちました。しかし、「洛西寮のこれから」という総論段階での議論に留まりました。それに反し、「ボランティア養成講習会」は西京区社会福祉協議会と西京区視覚障害者協会との共催で第4回目を成功させることができました。残念だったのは、洛西寮のオリジナル商品の開発に関する検討ができなかったことです。

3. 利用者サービスの拡充

- ・ 施設入所支援における職員体制の拡充は財政的な裏打ちが得られず実現できませんでした。
- ・ 相談支援の拡充では、今年度から当事者による当事者支援を基本とした「ピアカウンセリング」の手法を導入して相談支援を行いました。また、昨年3月に開始した計画相談にも取り組み、施設利用者全員を対象に実施しました。引き続き、施設利用者の声をサービスに反映させる仕組みづくりが課題です。

4. 職員の資質向上、研修の拡充

最大限、外部での研修機会をとらえて職員を派遣しました。しかし、伝達研修や研修報告の不十分さなど、改善すべき課題を残しました。ただ、今年度より全国盲重複研究会へ加入し、施設利用者の重度化に対応した学習の場が期待できます。

5. 安全・保健衛生対策の拡充

安全防災については、年2回の法定義務を達成しました。保健衛生、健康面については、今年度から新たに「健康管理委員会」を設け、看護師、管理栄養士、サービス管理責任者を中心に、日常の課題とタイムリーに取り組みました。その結果、栄養ケアマネジメントの定着、食事、健康面での個別支援、飲料水摂取の日常的把握、感染症対策の具体化、口腔ケアへの対策など、新たな前進を見ることができました。

6. 対外的な諸団体との交流・連携促進

京都府が主催する視覚障害相談会や視覚障害施設・団体等共催事業を通じて有効な連携の成果を積み重ねることができました。特に、南部及び、北部の福祉サービス拠点づくりに対し、それぞれの相談員が地域の取り組みに参加し、法人としての役割を発揮しました。

7. 財政運営の健全化、効率化に向けた取り組み

法人運営会議を中心に財政分析や収支バランスについての討議を重ねました。しかし、今後の経営見通しや経営改善についての専門的なアドバイスの必要性が求められます。

8. 後援会活動の活性化

施設と地域を結ぶイベント企画として始めた読み書きサービスは施設で活動する音訳ボランティアのご支援で施設内外からの利用者が継続し、大きな成果を収めることができました。また、夏まつりの会場で企画した地域4事業所のほっとはあと製品の販売コーナーでは、コラボ企画の効果が発揮され、新しい地域でのつながりが生まれました。

以上、八つの課題別の評価から得られたことは、まだまだ取り組みが職員全体に浸透していないこと、課題と取り組むための創意工夫が不十分なこと、達成へのプロセスが明確になっていないことなどが反省点として浮かび上がりました。

3 各部門の事業概況

1. 障害者支援施設「洛西寮」

洛西寮では、現行事業体制への移行後2年を経過し、課題の明確化と先行きに対する見通しを明らかにする上で、職員研修会などで議論を積み重ねました。

日中活動の二つの事業所間の特長とそれぞれの違いについて正確な検討が不足していることから、先行きに対する不安やぶれが生じ、利用者支援の方向が明確に打ち出せない現状も見受けられました。

しかし、洛西寮の中で、日中活動の2事業所と夜間の施設入所支援とを一体的に運営できることを最大のメリットとして位置づけ、働き続けられる事業所をめざす中で、ちくりん（生活介護）は当分の間生産活動型として運営すること、らくさい作業所は、より働き続けられる事業所として、働く意欲の向上と協調性などに力を入れ、多様な作業科目に挑戦する事業所を目指すこと、また、施設入所支援における食事支援では、今後予測される施設利用者の障害の重度化に伴う機敏な病態食等への対応を最優先する立場から厨房の業務委託を決断するに至りました。

①ちくりん（生活介護）

ここ2年間で高齢による老人ホームなどへの移行で3名が退所し、年度末には登録者が20名にまで減少しました。そんな中で、ちくりんは、日常の買い物支援やレクレーションの拡充を図ると共に、個別のニーズに基づいて個人のリクエストで企画された利用者の誕生日に実施する「ハッピーバースデー企画」はヒット企画となりました。

課題としては、引き続き、ちくりん利用者の生活の質を向上させるための余暇活動の充実、歩行訓練指導の拡大、生活支援プログラムの再構築、計画的な業務運営と勤務表に基づいた作業支援体制づくりなどが浮き彫りになりました。

また、2月末時点で、ちくりんの利用定員を25名から20名に引き下げ、現状に沿った定員として京都市へ申請しました。それは、今回の報酬単価改定で単価の小規模ランク（らくさい作業所との多機能で利用定員40名枠）に変更することによって、報酬の目減りを防ぐと共に、財政悪化を食い止める苦肉の策を講じるべき必要があったからです。

②らくさい作業所（就労継続支援B型）

本年度洛西寮新規通所者4名全員を受け入れたため、年度末には登録者が23名に達しました。引き続き、らくさい作業所は、就労意欲の向上と社会性、協調性を大切にしながら、全ての作業にチャレンジすることを目標として移行後3年目を迎えることとなります。

課題としては、ミシン作業の複数支援体制づくり、狭隘化している作業場環境の改善、全職員が全ての作業を熟知する作業支援力向上、新たな自主製品の開発などを掲げました。しかし、全利用者に占める中途視覚障害者の割合が増加し、通院や療養などによる欠席者が増え、登録数に比べて日々の出席率は伸び悩みました。

これら2事業所を統括する組織的な運営が不十分で、らくさい作業所に新たな主任の配置をするなど、改善すべき課題が明らかになりました。

③施設入所支援

これまで、日中活動本意の運営であった洛西寮の事業を新たに夜間の施設入所支援として区分し、事業の明確化を図ることとしました。

今年度末現在の施設入所利用者は28名で大型連休やお盆・正月の休暇で帰宅できる利用者は全体の3分の2、残りの3分の1は24時間、365日施設での生活をよぎなくされています。その中で、最大の懸念は、夜間の宿直支援員1名体制であること、しかも非常勤の宿直者に任されていることです。

そうしたことから今年度も、京都市に対して夜間の複数支援員の配置を要請しましたが、現行の報酬単価では到底新たな支援員の確保ができない上に、京都市からの単独の支援の可能性もなく現状を受け入れざるを得ない状況となっています。しかし、日々の安全・安心な生活を考える中で、より一歩でも前進するために、来年度5月から午後8時までの複数支援員体制の実現を目指すこととなりました。課題としては、寮内居室の個室化、静養室確保、通所者の休憩室の整備、休日の余暇対策の拡充、日宿直の生活支援員との緊密な連携などが再確認されました。

2. 紫野点字社

京都市からの広報誌の印刷受注をはじめ、関係機関からの製版、印刷、発送などを請け負い、入力部分は紫野点字社、印刷、発送等はらくさい作業所で分担しています。

課題としては、紫野点字社とらくさい作業所との業務連携が不十分なこと、点字作業の担い手育成と作業の見直しです。それに加えて、点字作業に携わるスタッフのレベルアップと点字の習得による質の向上が急務です。

3. 京都府中途失明者生活指導員派遣事業（以下、「府巡回」と略記）

府巡回は、府内全域に2名の相談員という体制の中でも、連携作りや啓蒙活動を地道に進めてきた結果、対象者数・延派遣件数とも2期連続で増加し続けています。特に、北部では関係機関とのケース会議などを重ねることで、課題の「発見」から、「共有」、「解決」まで導く連携が生まれてきています。また、南部でも定点型地域拠点（サテライト）の活動が地域に浸透するとともに、情報が届きにくく社会参加の機会が少なかった視覚障害者に、地域社会との関わりを作り出しています。北部・南部共、地域特性に応じた巡回相談活動を展開する中で、地域全体が共通の認識で対応できる地域福祉のしくみが作られ始めています。

4. らくさい治療院（就労継続支援A型）

開所から2年目、真価が問われる年度となりました。個別の支援計画と三療のマッチングがより明確となり、スタッフへの関わりが充実してきました。

また、モチベーションの明確化と目標設定、それに対する行動・振り返り・成功体験・自己理解の促進などが、スキルアップと関係していることが確認できたことは大きな成果でした。

平成26年度は、売り上げ、患者数ともに前年を上回る結果となり、らくさい治療院の地域への着実な浸透と、スタッフのスキルアップの促進が図れた年となりました。

一方で、就労継続支援A型の運営面の厳しさを痛感した年でもありました。特に、限られた報酬による体制、最低賃金や法定福利費の保障等、事業所にとって、厳しい運営状況の中、これからいかに発展していくかが今後の大きな課題となっています。

その1つとして、利用者のスキルアップを図り、患者数の増加を目指すこと。もう1つとして、一般就労・開業に向けたキャリア支援の充実を図り、そのために何が必要かを明確にし、利用者の自己及び職業の理解・意思決定・自己実現が促せるよう、より一層の支援体制に力を入れていきたいと考えています。

5. 盲人ホーム「美鈴」

平成19年9月の新築開設以後7年目を迎え、今年度も安定した事業運営を維持し、一割近い患者増を達成しました。利用者の研修においても、事業運営にとっても要となる患者数が今年度も、5905名、前年比109.4%と大幅に増加しました。

利用者の動向では、4月に定数6名でスタートしましたが、利用者のうち1名が就労に結びつき、研修の成果を活かして当初の目標を達成することができました。

6. 相談支援事業所「スマイルサポート」

2年目を迎え、施設利用者の計画相談を担当しました。京都市などが企画する研修会などへも相談員を派遣し、情報入手と相談スキルの向上に努めました。課題としては、支援員との兼任であるため、相談ニーズに充分対応できない体制の弱さが最大の問題です。

7. 法人事務局

経理、庶務全般にわたる業務をはじめ、諸規定の整備、厨房の業務委託、退職共済制度移行実務など、繁忙を極めました。課題としては、事務局内での業務分担、記念事業の運営、大型設備・備品の更新費用の捻出、庶務分担の明確化などに直面しています。

最後に、平成26年度は、新事業移行後2年目を迎え、比較的落ち着いた年度となりました。しかし、今回示された国の報酬単価改定では、生活介護の報酬単価が落ち込んだだけに留まらず、他の事業部門もマイナス改定であったため、財政維持に苦慮する結果となりました。また、入所定数30名に対し、28名で推移したのに対し、通所利用が15名を数えました。

洛西寮は、来年度には創立30周年目の節目を迎えます。この地で展開してきた法人の事業を見直し、さらなる発展に向け、役職員一同前進して参ります。

II 各部門別報告

A. 障害者支援施設「洛西寮」

【支援計画】

概要

今年度より、栄養ケアマネジメントと支援計画会議を一緒に実施した。それに伴い様式の変更も行うことで、効率化を進めた。

その他、支援計画を1年以内に作成することにこだわらないモニタリング重視に変更したり、アセスメント項目を今の各事業所のニーズや課題につながるよう検討した。

書類作成優先ではなく、深く利用者について話し合うことで、より良い支援につなげられるよう努めた。

今後は、事業所全体の共通認識の強化をするため、会議などを検討していく。

【各事業】

1. 生活介護「ちくりん」

概要

利用者ニーズに応じた生産活動・レクリエーションや日常生活上の支援、個別支援等の機会を提供し、生活の質の向上を目指した。

特にコミュニケーション支援、個別支援など幅広い利用者ニーズへの対応の拡充と強化に努めた。

成果

- ・利用者個々の思いや好きなことが叶う「特別な日」として、誕生月に「ハッピー・バースデー企画」を実施した
- ・全員参加での日帰りレクリエーション企画を試み実施した
- ・毎金曜日のレクリエーションでは外出組と施設内での活動組の2企画を提供し、選択できることで参加率の引き上げにつながった
- ・毎木曜日に買物支援を固定して行った
- ・生産活動においては、昨年同様の生産量を維持できた
- ・生産活動、レクリエーション等においてボランティアの協力が得られ交流も深まった

課題

- ・個々に応じた具体的な生活支援プログラムの作成
- ・個別の関わりを通じた生活レベルの向上
- ・日中活動支援等に対する支援体制づくり（職員配置数、勤務表等）
- ・生産活動において、らくさい作業所との連携を図る

実績

- ・レクリエーション
内容＝散策・茶話会・カラオケ・健康維持・映画・外食等
年間回数＝49回
平均参加者＝延 678 人 ÷ 49 回＝13.8 名（平均出席率 69%）
- ・バースデー企画 平成 26 年 7 月～ 14 回
- ・紙器加工年間生産数＝218,000 セット（前年度対比 94.8%）※北村紙器

・ 工賃

総支給月数	就労時間	工賃支払総額	平均工賃月額	平均工賃時間額
合計③	合計①	合計②	②÷③	②÷①
252 月	17,444 時間	3,759,572 円	14,919 円	215.5 円

2. 就労継続支援B型「らくさい作業所」

概要

らくさい作業所の方針「働くことを通して社会性を身につけ、人との関わりを学ぶ」に基づき、協調性・責任感・作業意欲を意識できるように働きかけ、それぞれの利用者が作業を通して様々な経験が積めるように支援した。

生活支援においては、個々の利用者に応じた支援の強化に努めた。又、必要に応じ、家族と連絡・相談を重ねる事で、より密な連携を深めた。

成果

- ・ 通所者の登録利用者が増え、年度末には 23 人となった
- ・ 新規業者から仕事を受け、より様々な作業に従事した
- ・ 毎年実施している保育園バザーがきっかけで、卒園記念の注文が増えた
- ・ 朝礼当番を全て利用者で行い、年 2 回のレクレーションについても利用者主体で取り組んだ
- ・ 利用者の意見を取り入れながら、作業の効率化・作業環境の改善に取り組んだ
- ・ 男性女性それぞれ月 1 回の生活支援の時間を設け、生活の質の向上に努めた
- ・ 職員のスキルアップ研修（点字）実施

課題

- ・ 利用者個々の障害特性に合わせた支援
- ・ 作業スペース・安全確保
- ・ 生活支援の時間確保、質の向上
- ・ 利用者の自主性・協調性を養う環境づくり
- ・ 就労支援及び方法等の職員研修、スキルアップ
- ・ 様々な作業対応の効率化、作業品質・生産数の向上
- ・ 適正且つ、わかりやすい工賃評価作成
- ・ 工賃向上に向けた目標設定と売上管理

実績

- ・ 作業科目一覧

科目	内容
点字印刷	市民しんぶん、市会だより、部局情報誌、選挙、盲導犬情報等
封入発送作業	市民しんぶん拡大版、市民ニュースポスター、京都創生 PR ポスター
ミシン縫製	下請：和装用袋、袋物、袋詰 自主製品：給食袋・体操服入れ・白杖入れ・手提げ袋等
箱作業	京菓子箱：八つ橋・ようかん
数珠加工	数珠玉通し
黒豆茶	ティーパックの袋詰め作業

・ 売上

科目	売上 (円)
点字	10,026,092
自主製品	837,890
縫製下請	484,877
箱作業	803,952
数珠加工	222,946
黒豆茶	380,150
自販機	314,123
合計	13,070,030

・ 工賃

総支給月数	就労時間	工賃支払総額	平均工賃月額	平均工賃時間額
合計③	合計①	合計②	②÷③	②÷①
259 月	21,203 時間	6,505,951 円	25,120 円	306.8 円

3. 施設入所支援（夜間支援）

概要

- ・ 夜間支援における安全・安心な生活環境整備、危機管理対策の問題点、課題分類と方向性について職員全体で検討を行った。
- ・ 長期休暇前、週末の利用者支援等の申し送り、新年度に向けての厨房外部委託に伴う業務体制の見直しの検討を行った。

成果

- ・ 館内巡回強化（特に夕食前の巡回徹底）により、利用者の体調異変の早期発見に努めた
- ・ 緊急時の連絡体制、複数体制により発見時から救急搬送まで迅速かつ円滑に対応が出来た
- ・ 緊急用カルテの定期的な点検を行い、緊急時のスムーズな対応、活用が出来た
- ・ インフルエンザ予防対策として休日に複数対制でバイタルチェックを実施
- ・ 長期休暇及び、週末の申し送り業務の周知徹底
- ・ 長期休暇中の緊急対応時の支援員体制に着手
- ・ 新年度に向け夜間支援員複数体制作りの具体化に着手
- ・ 休日及び夜間想定の方針訓練の実施

課題

- ・ 夜間支援における安全・安心な生活環境整備、危機管理対策の継続検討
生活環境整備（居室の個室化、交流の場、静養室）
衛生環境の強化（居室、館内等共用部分）
遅出勤務 20 時までの職員複数体制の拡充
- ・ 休日及び長期休暇の日中活動の具体的プログラムと支援体制作り

【各サービス内容】

1. 健康管理

概要

- ・ 利用者個々の目標やニーズ、課題に即した支援計画の実践
- ・ 単独通院が困難な利用者や急病の利用者に対して、通院介助及び入院時の支援

成果

- ・ 定期的な体重・血圧測定の実施、経過把握を行った
- ・ 救急時や通院介助時、利用者緊急用カルテを活用した
- ・ 利用者緊急用カルテの整備・点検を行った
- ・ 内服介助をより安全にできるよう、事務所に棚を設置した
- ・ インフルエンザ発症時に支援員・管理栄養士と協力し、隔離、館内・手すり・流し等の消毒、うがい・マスク・手洗いの声かけ、全員の検温等迅速な対応をし、今年度は1名の発生のみだった

課題

- ・ 静養室の未整備
- ・ A E D 設置・救命講習の実施

実績

- ・ 利用者の健康診断等の実施状況

期日	実施内容	対象者	人数	実施者等	実施場所
毎月1回	嘱託医健診	希望者(8・2月は全員)	168	洛西寮嘱託医	洛西寮医務室
		マラソン出場希望者			
	寮内健診	全員	470	洛西寮看護師	洛西寮医務室
4月	胃癌検診	40才以上	4	京都予防医学センター	洛西支所
	大腸癌検診	40才以上	8	京都予防医学センター	洛西支所
6月	歯科健診	希望者	3	京都府歯科医師会	洛西寮医務室
7月	基本健診	全員	39	鳥羽クリニック	洛西寮
4月、1月	子宮癌検診	20才以上女子	3	医療機関	洛西NT病院
11月	眼科健診	希望者	9	医療機関	洛西NT病院
4月、12月	乳癌検診	30才以上女子	3	医療機関	洛西支所
7月、1月	耳鼻科健診	希望者	45	医療機関	豊田医院

- ・ 通院件数

年度	通院件数
21年度	500
22年度	420
23年度	566

24年度	716
25年度	690
26年度	596 (内介助 413)

2. 食事の提供

概要

- ・ 嗜好調査結果より、利用者のニーズに合わせた献立作成に努めた
- ・ 調理場の清掃、調理器具の使い分け、害虫駆除、検便等の衛生管理に努めた
- ・ 医師の指示に従った療養食の提供と、検診結果に基づく栄養指導を実施した

成果

- ・ 食中毒や感染症に罹患する利用者がなく、安定した食事提供ができた
- ・ 栄養ケアマネジメントを導入し2年目となり、入所者の健康・栄養状態について、多職種で各立場から検討を行い、評価・個別指導を行うことができた。家族協力の依頼も行った。

課題

- ・ 栄養ケアマネジメント導入により、健康面・栄養面において継続的指導が必要な利用者について、指導時間の確保が課題
- ・ 入所者の個別対応の増加と、通所者にも慢性疾患により特別食対応の必要な利用者が増加したことにより、パート調理員では十分な対応ができなくなっている
(27年度は給食業務を委託化し、調理師、栄養士を配置予定)

実績

行事食一覧

行 事	内 容
開所記念日 (4/17)	赤飯、ぶりの照り焼き、三度豆の生姜和え、酢れんこん、若竹煮、茶碗蒸し、いちご、オレンジ
子供の日 (5/5)	とんかつ、三度豆のサラダトマトソースかけ、青梗菜のスープ、柏餅
七夕 (7/7)	七夕ちらし寿司、南瓜のそぼろあんかけ、七夕汁、キウイフルーツ
クリスマス (12/24)	米飯、ローストチキン、シーフードサラダ、ミネストローネ、パイナップル
お正月 (1/1~1/3)	おせち料理 (10 種)、お雑煮 (3 種)、焼肉、ちゃんこ鍋、天ぷら (海老、南瓜)、うなぎちらし寿司、ポークピカタ 等
節分(2/3)	恵方巻き、鯛の蒲焼き、小松菜の磯和え、赤だし、節分福豆
ひなまつり (3/3)	春らんまん菜の花ちらし寿司、小松菜とはんぺんの和え物、吸物、いちご、パイナップル、ひなあられ

3. 歩行訓練

概要

- ・ 利用者一人一人の要望に応じ、個々のニーズ・歩行技術に併せ実施した
- ・ 施設館内でのファミリアリゼーション（環境理解）
- ・ 通所利用者に対する単独通勤のための歩行訓練
- ・ 白杖基本操作獲得・道路などの環境構造理解・状況把握
- ・ 寮周辺店舗までのファミリアリゼーション（環境理解）
- ・ 店舗などでの実践を想定した社会適応訓練

成果

- ・ 2名の利用者に対して単独歩行による通勤を想定した歩行訓練を行い、両名とも通所が可能になり、施設利用に繋がっている。また、4名の新しい利用者に対して洛西寮館内のオリエンテーションを始めとした移動の訓練を行った他、洛西寮から近隣の商店や歯科医院までの歩行訓練により日常生活の行動範囲を拡大し、施設での安定したQOL向上に向けた支援を提供している。
- ・ 実習生や新人研修生に対して、視覚障害の理解と手引き歩行についての講習を行い、視覚障害に対する理解を深めるきっかけとなった

課題

利用者個々のニーズに対する十分な訓練時間の確保ができていない

実績（延べ人数）

- ・ 自宅から洛西寮への通勤の訓練 2名
- ・ 洛西寮館内のファミリアリゼーション 4名
- ・ 洛西寮周辺の医療機関、店舗などへの外出の訓練 4名
- ・ 単独歩行の基礎技術の訓練 4名

4. 余暇活動支援（共通の活動）

概要

- ・ 外部講師による音楽（合唱指導）を実施した
- ・ 長期休暇、土日祝の日直者による日中活動の提供を行った
- ・ 地域行事、催しの案内等情報提供を行った
- ・ 選択科目のサービス提供を行った

成果

- ・ 夏まつり・クリスマス会等の行事には、全員参加で合唱発表を実施することが出来た
- ・ 京都市社会福祉施設協議会、公益財団法人オリックス財団、ドラゴンゲートプロレス 様のご招待を受け、利用者の興味や関心のある催事（木下サーカス、野球、水族館、プロレス観戦等）に参加することが出来た。
- ・ 視覚障害者団体、地域等の行事・催事等、利用者の社会参加への働きかけに努めた。

課題

- ・ 利用者一人一人が余暇活動を楽しみ、リフレッシュ出来る環境作り
- ・ 休日及び長期休暇等の過ごし方の見直しと支援体制作り
- ・ 地域行事等に参加し、地域社会の一員としての交流を深める
- ・ 支援員のレクリエーション内容に対するスキルアップ

実績

- ・ 日中活動支援
内容＝地域行事・茶話会・対面朗読・招待催事
- ・ 選択科目

科目	利用者人数	内容
健康と調理	6名	健康・栄養に関する勉強会、材料の買い物、調理実習
体操	20名	準備体操、ストレッチ、筋力トレーニング、整理体操、散策、球技等
点字	5名	各習熟度に応じた点字の読み書き練習
社会	8名	テーマにそつての情報提供（新聞記事等）

5. 買い物支援サービス

概要

- ・ 希望者のみ毎月一回、イオンと近所の店舗へ買い物支援をする
- ・ 買物を通して、地域との関わり・マナーを学んで行く

成果

- ・ 単独での買物が困難な利用者が安心して利用できる機会を提供出来た
- ・ 日用品の定期的な購入等、買物を体験出来る機会を設け、知識や経験を積むことで自信へと結びついてきている
- ・ 支援員と一緒に行き、目的とする品物を利用者個々に応じ、わかりやすく説明をすることで安心して買物が出来た

課題

- ・ 各事業所の作業時間が異なるため、日程等の検討
- ・ イオン向日町店が閉店するため今後の買い物先の検討

実績

- ・ 年間延人数＝近所：74人、イオン向日町店：21人
- ・ ちくりんでは、毎週木曜日を買物支援日と設定

6. ボランティア支援サービス

概要

今年度は、総勢50名の登録者があり、利用者個々の課題やニーズに応じた日常生活上の支援の充実を図るため、様々な分野で協力を得た。

成果

- ・ 洛西寮夏まつり等の行事における要員ボランティアの確保
- ・ 春の行事、研修旅行、休日及び長期休暇の個別の外出支援（買い物、映画鑑賞、散策等）、作業所別の余暇活動支援における手引きの確保
- ・ 選択科目における点字指導や社会での情報提供

- ・ 利用者とボランティアとの交流を深める自治会行事の実施（七夕会、クリスマス会、新年会）
- ・ 朗読ボランティアによる、毎週月曜日の「あんな話こんな話」の情報提供及び毎週土曜日の対面朗読
- ・ 繁忙期における作業の協力

課題

- ・ ボランティア登録者減少及び高齢化
- ・ 休日の外出支援ボランティア確保の調整に苦慮した

実績

ボランティア登録者数 49 名（平成 27 年 3 月 31 日現在）

ボランティア活動実績

活動内容	延人数
作業	286
朗読	601
選択科目	141
手引き	123
行事	107
合計	1,258

B. 三療事業部

1. 盲人ホーム 美鈴

概要

利用者の研修においても、事業運営にとっても要となる患者数が、今年度 5,905 名で前年比 109.4%と大幅に増加した。

利用者の動向では、4 月定数 6 名でスタートしたが、1 名が㈱JR 西日本アイウイルに就職が確定して 9 月末で美鈴を巣立っていくことができ、10 月以降は 5 名体制になった。

美鈴は平成 19 年 9 月に新築開設後着実に実績を積み重ねてきたが、今年度も安定した事業運営のもとで一割近い患者増、就労による研修修了者 1 名の実績を上げることができた。

① 患者数の推移

今年度の患者数について

- ・ 患者数が増加しているにもかかわらず新患数は昨年より 9 名減少して 97%であった。要因としては土・日に集中する傾向の新患を、利用者が 1 名少なくなった年度後半にたびたび受け入れる事ができなかったからではないかと推測しているが、2015 年度は新患獲得を強化しなくてはならない。

- ・ 鍼の患者数は1,118名で前年度比153%、総患者数比でも19%（前年度は14%）と飛躍的に増加しており要因としては対応できる利用者が増えたことに加えて患者一人当たりの治療回数が増えた事による。

年度後半利用者が1名少なくなったもとので上記の実績を上げることが出来たのは利用者の高い勤労意欲が基本となって接遇やコミュニケーション、施術力などバランスのとれた総合的な仕事力の向上によるものである。

② 利用者の技術向上のための取り組み

今年度は、昨年度と同様に美鈴利用者の状況を施設長と指導員で、総合的に評価したうえで接遇、環境整備、情報処理や清潔保持、身だしなみやコミュニケーションなどについては、相応の水準に達していると判断した。

そのうえで、施術のスキルを高めることに特化し、指導員と利用者、利用間者で、揉み線や圧迫法・揉捏法などの、手技力、圧痛点の触知力などのチェックを繰り返し行うことを通して、自身の施術を振り返り自身の課題を意識するよう努力した。また、朝礼で新患をはじめ患者施術で観察したことや、気付いたこと、注意を喚起すべきことなどについて積極的に報告しあうようにして患者の状態に全員の共通の理解が進むように努力した。

③ 研修支援

京都府立盲学校の生徒2名の夏季実習を受け入れ実施した

④ 地域イベントへの参加

- ・ 洛西寮夏まつりにて無料奉仕マッサージを行い好評を得た
- ・ 船岡秋のスタンダードにて有料マッサージに参加

成果

- ・ 患者増の目標を達成した
- ・ 利用者それぞれに差はありつつも、患者からの指名率で限界に達している2名を除いて前年度より上がっており、着実に施術力量を高めることができた
- ・ 利用者の意見や要望に添ってわずかではあるが設備の改善を行うことができた

課題

- ・ 美鈴の将来展望を明確にすること。
- ・ 利用者の就労・就業支援業務を本格的に開始すること。
- ・ 年間6,000名の患者受け入れを達成すること

実績

- ・ 年間患者数=5,905件（前年比109.48%）
- ・ 年間売上=19,459,000円（前年比111%）

2. 就労継続支援A型「らくさい治療院」

概要

開所から2年目、真価が問われる年度となった。

支援計画と三療のマッチングがより明確となり、スタッフへの関わりが充実した。

また、モチベーションの明確化と目標設定、それに対しての行動がスキルアップにつながる事が確認できた。

平成26年度は、売り上げ、患者数共に前年を上回る結果となり、らくさい治療院の地域への浸透具合とスタッフのスキルアップの促進が確認できた年となった。

一方で、個別の能力開発と研修制度の一層の確立が大きな課題となった。

このような状況の中、スタッフの目標達成及び患者のQOLの向上など、大きな2つのニーズを満たしていくことが、らくさい治療院の役割として明確となり、予想以上の成果が生まれた年度になった。

① 支援方針

らくさい治療院は、全国の三療の施設関係に先駆けて、個別の能力開発及び研修制度を試みている。

まだ形としては確立できてはいないが、潜在能力を発揮しつつあるスタッフが増えてきている。

現在、視覚障害者を受け入れるところが少ない中、新しい雇用先として、可能性が期待されている。

将来的に、一般就労、開業へと進めるよう、プログラムとシステムの構築を目指す。

② 施設利用者数

時期	項目	人数
4月	1名新規採用	10名
3月	1名退所	9名

③ 支援計画

コンプライアンス（法令遵守）での施設の設置目的は、施設利用者のニーズ・課題に沿った個別支援計画による就労支援であり、開業や一般企業への就職を目指して個々の目標設定を明確にした。

今年度はスタッフのほとんどが、セルフプランを作成できるようになった。それは、支援計画が目標達成をすることの重要なツールとして、認識されつつあり、職員から与えられるのではなく、自分が作成する支援計画に自分が責任を持つことの意味を理解する力が身につくこととの現れと判断している。

④ 就労支援

今年度は、試験的に、コーチングとカウンセリングを行った。短期的、長期的な目標達成と自己理解の促進を図ることが、スタッフのスキルアップに対して、重要なこととして確認できた。

その結果として、昨年を上回る売り上げ、患者数がアップした。

また、個人のストレングス（潜在的な力・未活用の能力）を活かした能力開発の支援方法を、個別支援計画に反映させた就労支援の形が具体化しつつあるので、さらなる具体化を目指し、どこの施設でも使えるものとして確立していく。

成果

- ・ 支援計画がセルフプランによるもので、そのプランに対して、責任ある行動ができた
- ・ 個別の能力開発を試みた結果、指名数がアップしたスタッフが増えた

- ・ 研修制度の強化により、受付での予約、カルテ、電話対応など、管理能力がアップした
- ・ 傾聴トレーニングにより、コミュニケーションを取ることが、以前よりもスムーズになってきた
- ・ 自分の強み、患者のニーズの把握及び振り返る力が身についた
- ・ 成功体験の積み重ねの重要性が確認できた
- ・ 実例による実践報告をする機会があり、好評を得た
- ・ 洛西寮夏まつりにて無料奉仕マッサージを行い好評を得た

課題

- ・ 施術スキルの均等化（指名患者の均等化＝個人売上の均等化）
- ・ 最低賃金の保証
- ・ らくさい治療院の周知と集客
- ・ スタッフとのコミュニケーション
- ・ スキルアップ体制の強化
- ・ 個別の能力開発プログラムの確立
- ・ 安定した経営ができる収支分析と目標設定

実績

- ・ 年間患者数＝5,369人（前年比104%）
- ・ 年間売上＝17,758,400円（前年比107%）
- ・ 平均賃金

総支給月数	就労時間	賃金支払総額	平均賃金月額	平均賃金時間額
合計③	合計①	合計②	②÷③	②÷①
120月	15,477時間	17,004,858円	141,707円	1,098.8円

C. 法人

1. 事務局

概要

① 組織体制の見直し

1事務局、1事業部、1事業所、体制

- ・ 法人事務局
- ・ 三療事業部（盲人ホーム美鈴・らくさい治療院）
- ・ 洛西寮（洛西寮・ちくりん・らくさい作業所）

② 規程類の新規施行及び改正手続き

- ・ 法人資金運用規程の施行（経理規程の一部改正）
- ・ 理事長の専決規定の施行
- ・ 定年退職職員再雇用規程及び細則の施行
- ・ 給与規程の一部改正（特殊勤務手当の改正）
- ・ 新専決事項の施行（理事長、常務理事、内規で施設長）
- ・ 役員報酬等規程の施行（理事長、役員、評議員）
- ・ 給与規程の一部改正（退職手当制度改正による）

③ 京都市関係

- 事業所変更届
 - 洛西寮日中活動（生活介護・就労継続支援B型）の定員の変更
45名から40名に変更（平成27年4月1日から開始）
- らくさい治療院 利用者就業規則の変更に伴う運営規程の変更
（平成27年4月1日から開始）
- 補助金
 - 盲人ホーム事業補助金
 - 民間社会福祉施設サービス向上補助金（施設整備、借入金元本返済）
 - 民間社会福祉施設 施設整備利子補給金（借入金利息助成）
- 京都市実地指導監査の実施
 - 実施日：平成27年1月7日（水） 午前9時30分～午後4時
 - 対 象：法人及び障害者支援施設洛西寮（施設入所・生活介護・就労継続B型）

④ 機関誌「楽西(らくさい)」の発行・ホームページの更新

- 機関誌「楽西」については年2回（7月と1月）、各事業所の状況や施設行事の報告、製品の紹介、利用者の様子等、編集委員で検討し発行した。
- ホームページについては、法人事務局において「社会福祉法人現況報告書」の掲示等更新をした。

成果

- 洛西寮ちくりんの定員変更による適正な運営への実施（平成27年2月28日届）
- 定年退職職員の再雇用制度の規程整備（平成27年4月より実施）
- 公用車2台の助成金による更新

課題

- 常勤嘱託職員の就業規則の策定
- 就業規則の一部改正（職員勤務の2交代制、服務規則・賞罰規則等の見直し）
- 給与規程の諸手当の見直し

実績

事業運営

事業(所)名	サービス事業	事業開始年月日	定員
障害者支援施設 洛西寮 ・洛西寮 ・ちくりん ・らくさい作業所	施設入所支援（30名） 生活介護（25名）→（20名） 就労継続支援B型（20名）	平成23年10月1日 平成23年10月1日 平成25年4月1日	45名 (40名)
点字出版施設 紫野点字社	点字出版事業	昭和57年4月	
京都府中途失明者巡回生活指導員派遣事業	更生相談事業	昭和52年10月	
盲人ホーム美鈴	地域生活支援事業	昭和57年4月	20名
らくさい治療院	就労継続支援A型	平成25年4月1日	10名
障害者相談支援事業所 スマイルサポート	特定相談支援事業	平成26年3月1日	

（ ）内は、2015年4月より変更

理事会・評議員会の開催

・ 理事会

月	日	主な内容	出席者数
5	28	平成 25 年度事業報告並びに決算案について ほか	理事 7 名 監事 2 名
7	23	定年退職職員再雇用規程案について ほか	理事 6 名 監事 2 名
9	24	専決事項の改正について	理事 8 名 監事 1 名
11	26	2014 年度予算計画の中間執行状況について	理事 5 名 監事 0 名
1	28	役員報酬等規程案について ほか	理事 8 名 監事 2 名
3	25	平成 27 年度事業計画及び予算案について ほか	理事 4 名 監事 0 名

・ 評議員会

月	日	内 容	出席者数
5	24	平成 25 年度事業報告並びに決算案について他	理事 3 名 評議員 14 名 監事 2 名
3	21	平成 27 年度事業計画及び予算案について ほか	理事 3 名 評議員 12 名

・ 監査会

月	日	内 容	出席者数
5	24	平成 25 年度事業報告及び会計監査について	理事 1 名 監事 2 名

・ 法人運営会議

2 箇月 1 回

・ 法人事務局会議

月 1 回

人事

- ・ 採用 らくさい作業所職業指導員 (1 名)
- ・ 復職 (育児休業) 洛西寮看護師 (1 名)
- ・ 退職 洛西寮看護師 (1 名)

法人登記事項

- ・ 代表理事重任登記 (平成 26 年 5 月 30 日)
- ・ 資産の変更登記 (平成 26 年 5 月 30 日)

助成金の決定及び不採用

- ・ 公用車 2 台助成金決定 (中央競馬馬主社会福祉財団、京遊連社会福祉基金)
- ・ 点字製版機購入助成、不採用 (清水基金)
- ・ 視覚障害者用情報通信機器助成金決定 (立川福祉基金)

2. 点字出版施設「紫野点字社」

概要

京都市からの点字印刷を中心に受注した。市民しんぶん・市会だより点字版は年間契約し、毎月安定した仕事量を確保できた。

その他の受注では、選管・行財政局・上下水道局・交通局・都市計画局などから市民しんぶん挟み込みタブロイド紙の点字版を製作した。

また、点字以外では、市民しんぶん拡大版・市政ポスターの宛名印刷、封入発送業務を年間契約で受注した。

京都市以外では、社会福祉協議会や視覚障害者関係団体、ボランティアグループなどからの受注があった。

大口では、社会福祉法人日本盲人福祉委員会の視覚障害者選挙情報支援プロジェクトに参加し、参議院選挙の点字公報の一部を担った。

成果

- ・ 視覚障害者やボランティアの活動を援助する点字印刷を迅速に安価に行えた。
- ・ 視覚障害者の不足しがちな情報を提供するための出版活動を推進した。
- ・ らくさい作業所の作業を確保し、安定した工賃配分と就労意欲を向上させた。
- ・ 過去5年間では、製版と名刺・はがきの枚数で最高枚数を記録した。

課題

- ・ 市民しんぶん点字版の短期間での製作日程への対応と効率化
- ・ 市民しんぶん点字版の発行部数減少にともなう売上の減少
- ・ らくさい作業所点字印刷能力と受注への調整
- ・ 京都市への入札における競争力のある価格の検討
- ・ 製版機の更新
- ・ 後継者の育成

実績

作業内容	枚
製版	6,127
塩ビ版印刷	524,040
パソコン製版	568
パソコン印刷	10,874
点字名刺、はがき	2,639
点字シール	2,213
発送	1,469
墨字印刷	32,255
墨字入力	19

3. 京都府中途失明者巡回生活指導員派遣事業

概要

① 今年度の特徴

今年度の訪問相談事業は、対象者数 156 人・延派遣回数 450 回で、前年度より対象者で 10 人、派遣回数で 26 回相談支援件数が増加している。北部・南部それぞれに地道な連携作りや啓蒙活動を進めてきた結果である。

特に北部では関係機関との連携は広く深くなり、ケース会議やネットワーク会議を重ねることで、地域が共通の認識で対応出来るようになってきている。また、南部での定点型相談事業の活動も地域に浸透してきており、今まで情報の届きにくかった視覚障害者に福祉につながるための、啓蒙や連携を作り出している。社会参加の機会も少なく、様々な情報を得にくい環境下に置かれている視覚障害者が、潜在的に相当数いることが確実なため、本事業が果たす役割の重要性が結果となって表れはじめている。

② 南部サテライト事業の取組

本格実施から 3 年目を迎えた定点型相談訓練事業（南部サテライト事業）も、地域で定着が進み、京田辺、宇治、長岡京で毎月 1 回、精華、八幡では不定期に開催をし、全会場で合計 45 回開催、延べ 491 名の当事者が参加している。

内容は、相談支援・視覚リハ技術支援・情報提供支援・交流のためのサロン企画等で、専門性を活かした対応ができるだけでなく、当事者間のネットワーク作りや当事者自身が役割を持ち社会参加できる機会を提供するなど、社会参加が難しい視覚障害者にとって、生活の質を向上できる大変有効な視覚障害者の支援事業である。

③ 府内視覚相談会

京都府家庭支援総合センターと京都ライトハウス、京都視覚障害者支援センターが共催して実施している「府内視覚相談会」に相談員として参加した。相談ニーズを持った利用者との出会いや当事者間の交流によるダイナミックな効果を発見することができた。その場では解決しないニーズに対しては、後日訪問して対応している。

内容：個別相談・ロービジョン相談・視覚リハ訓練紹介・視覚障害者用機器・盲導犬・講演等

成果

- ・ 補装具・日常生活用具・各種機器の紹介、活用方法についての支援
- ・ 失明後の障害受容相談支援と生活訓練への連携
- ・ 福祉サービス、制度利用、障害年金請求等の情報提供と行政への連携
- ・ 介護保険利用者に対する制度利用の支援等、介護サービス事業者との連携
- ・ 福祉事務所との連携と視覚障害福祉の啓蒙
- ・ 一般就労の継続や新規採用及び福祉的就労の支援
- ・ 視覚障害者の社会参加の場の提供と生き甲斐創出
- ・ 地域ボランティア活動との連携・協力
- ・ 南部地域拠点（サテライト）事業による総合的相談支援拠点の創設
- ・ 視覚障害福祉南部新拠点（城陽市・南部アイセンター）設立につながるパイロットテスト的な役割と協力、支援

課題

- ・ 対象地域が広範囲なことに加え、視覚障害に関する相談の潜在的ニーズ掘り起こしによる相談件数の増加・相談ケースの深刻化により、巡回相談にマンパワー不足が生じはじめている。

- ・ 北部地域の中に、関係機関と共通の認識を持ちながら対応出来る連携システムができてきているが、府内全域で同様のシステムづくりが必要である。
- ・ 本相談事業の、京都府としての位置づけ、委託金の精算単価、職員配置、巡回相談用の車購入の支援など、新たな事業展開のための課題が山積している
- ・ 市町村窓口に対する本事業へのさらなる周知と協力支援が必要である。
- ・ 南部アイセンターにおける役割と協力関係の構築

実績

① 過去5年間の相談件数比較（延回数）

22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
352	369	307	424	450

② 南部地域拠点（サテライト）活動状況

実施地域	回数	参加者数（延べ）
京田辺	11	103
長岡京	12	119
宇治	12	148
精華	1	3
八幡	1	7
散策・企画	8	111
計	45	491

③ 府内相談会実施状況

実施日	開催地	会場	時間
5月13日	京丹波町	瑞徳保健福祉センター	10:30～15:30
7月29日	与謝野町	岩滝保健センター	11:00～15:30
9月9日	綾部市	綾部市保健福祉センター	11:00～15:30
11月14日	精華町	精華町役場	10:30～15:30
1月23日	長岡京市	中央公民館	10:30～15:30
3月10日	八幡市	八幡市立福祉会館	10:30～15:30

4. 指定特定相談支援事業「障害者相談支援事業所 スマイルサポート」

概要

平成24年の制度改正により、障害福祉サービスを利用するすべての人に「サービス等利用計画」の作成が必要となり、これからは提出されたサービス等利用計画を参考にしながら福祉サービス等受給者証の支給決定をすることとなる。しかし、まだ26年度は猶予期間であるため、入所利用者優先で計画作成を行う。またピアカウンセリングを導入し、利用者のカウンセリングを行う。

成果

- ・ アセスメント、サービス等利用計画案・確定版、モニタリングの作成、サービス担当者会議の開催。
- ・ ピアカウンセラーによる全員のカウンセリングの実施。

課題

- ・ 利用者の福祉サービス受給者証の更新時期が集中するため計画作成時期が重なる。
- ・ 通所者の場合、適切な利用計画相談や緊急時の対応が困難。
- ・ 相談支援専門員が他事業と兼務しているため、時間確保が困難。
- ・ 居宅介護や他施設との連携をとることについての経験不足がある。

実績

- ・ 計画相談

提供月	計画	モニタリング
4月	1	0
5月	1	0
6月	4	1
7月	12	1
8月	1	3
9月	1	1
10月	0	2
11月	0	1
12月	0	1
1月	0	0
2月	0	2
3月	1	1
合計	21名	13名

- ・ カウンセリング・・・58名（延べ人数）

5. 主催行事

① 第29回 洛西寮夏まつり

概要

開催日時 平成26年7月26日（土） 午前11時～午後3時

会場 障害者支援施設 洛西寮、らくさい治療院

内容

- ・ イベントコーナー（利用者自治会洛友会による合唱、大正琴同好会、母娘演奏“倫敦(ロンドン)”、コーラス“ハーモニーさくら”、和太鼓いちばん星、佛教大学よさこいサークル紫踊屋）
- ・ 模擬店（焼きそば、たこ焼き、かき氷、おつまみ、ジュース、生ビール、ポン菓子実演販売、遊び、洛友会コーナー等）
- ・ マッサージ・鍼無料体験
- ・ 洛西寮自主製品販売
- ・ 視覚障害体験コーナー（点字の名刺作り、アイマスク体験、卓球バレー、機器紹介等）

成果

- ・ 天候に恵まれ、開会前から近隣子ども達を中心に、住民の方々が行列をつくるなど、地域の恒例行事として浸透した。
- ・ 4階ホールでのイベントが多彩であったため、模擬店の一部が完売しても来客が減ることはなかった
- ・ 体験コーナーの卓球バレーでは、利用者と来客者が一緒になって取り組んでいた
- ・ 本会場とマッサージ会場が200メートルほど離れた場所にあるが、宣伝と誘導に力を入れた
- ・ 本法人が運営する新事業について、多くの方々に広く知っていただく良い機会となった

課題

- ・ 飲食場所の拡張
- ・ 家族と利用者のふれあいの場の提供の周知
- ・ 利用者参加拡大
- ・ 節電対策
- ・ 近所の方への周知の継続
- ・ 手引きボランティアの運営の仕方
- ・ 駐車場の借用
- ・ 暑さ対策
- ・ 地域団体等のイベント参加は良かった。今後も続けていくのが良いのではないか。
- ・ 学生ボランティアの確保及びボランティアの配置。
- ・ チラシの配布時期、場所。
- ・ 開催時期の検討

実績

来場者：約350名

協力ボランティア：56名（登録28、実習生・学生11、みやびワイズメンズクラブ17）

後援・助成：京都新聞社会福祉事業団、京都市住宅供給公社洛西事業部

後援：京都府視覚障害者協会、京都市社会福祉協議会、読売光と愛の事業団

協力：みやびワイズメンズクラブ

② 第29回法人研修旅行

概要

開催日時：平成26年9月18日（木）～19日（金）

行先：和歌山・白浜方面

内容

1日目：アドベンチャーワールド

2日目：白浜とれとれ市場、梅ジュース作り体験、ぶどう狩り

宿泊先：白良荘グランドホテル

成果

- ・ 86人の参加をバス3台で対応し、ゆったりと過ごすことが出来た。
- ・ 動物とのふれあい、味覚狩り、体験、試食等、視覚障害者が楽しめる企画を行うことが出来た。
- ・ 事前の打ち合わせにより、食事制限のある方にも十分な対応をしてもらえた。
- ・ 宴会では事業所単位で演目を出し、利用者・職員一丸となって取り組み、大いに盛り上がった。

課題

- ・ ボランティアの確保・養成強化
- ・ 当日の急病者の対応への体制づくり
- ・ バス料金値上げによる予算確保・日程調整

実績

過去5年間の旅行参加人数

年度	行先	利用者	職員	ボランティア	合計
22	南知多	45人	24人	10人	79人
23	淡路島	50人	22人	13人	85人
24	焼津	45人	20人	16人	81人
25	北陸	49人	23人	17人	89人
26	和歌山	46人	21人	19人	86人

③ 第4回西京区視覚障害者支援ボランティア養成講習会

概要

開催日時：平成26年5月27日（火）・5月31日（土） 10：00～16：00
（オプション＝6月3日（火）・7日（土） 13：30～16：30）

会場：障害者支援施設 洛西寮 会議室

内容：視覚障害についての講義、弱視体験、アイマスクでの昼食、手引講習など
（オプション：点字・朗読、利用者との近所の買い物）

- ・ 西京区社会福祉協議会、視覚障害者協会との共催で開催した結果、参加者・講習内容、外部講師及び関係ボランティアサークル等の協力支援が広く得られた
- ・ 共催3団体で実行委員会を組織し、企画から宣伝、当日の運営まで共同して実施することができた

成果

- ・ 洛西寮でのボランティア講習会の第4回が開催できた
- ・ 西京区社会福祉協議会との共催により、広範な宣伝と補助金による運営支援を受けることができた

課題

- ・ 養成後の施設側の再講習及び支援技術向上に向けた学習の場づくりの未整備
- ・ ボランティアコーディネーターの育成と日常の支援前後の相談・支援の体制づくりができていない。
- ・ ボランティア登録後の継続が難しい。

実績

参加者数 12名（洛西寮ボランティア登録者数8名）

6. 共催事業

① 第48回白杖安全デー（京都市内）

概要

日 時：平成26年11月16日（日）13時30分～16時

会 場：元春日小学校講堂

内 容：テーマ「白杖見たら声かけて ～何かお手伝いしましょうか？～」
交通安全集会とパレード（元春日小学校～烏丸御池）

参加者：約200名

成果

北部、南部での白杖安全デー集会の報告、点字ブロック敷設の取り組み発表、
会員からの安全な歩行環境に対する訴えなどで、市民への啓発を行った。

② 第40回あい・らぶ・ふえあ（視覚障害者福祉啓発事業）

概要

開催期間：平成27年1月9日（金）～12日（月・祝）10時00分～18時00分

会 場：大丸京都店6階イベントホール

内 容：

- ・ 絵画コンテスト＝小学生を対象にした絵画53点を展示
- ・ 体験コーナー＝ブラインド喫茶、点字体験、ロービジョン体験、ゲームコーナー、白杖体験、誘導體験、音の3D体験コーナー 等
- ・ 展示（ロービジョングッズ等の展示）
- ・ 販売コーナー：関西盲導犬協会、FS トモニー、洛西寮
- ・ 視覚障害者ボランティア連絡会の展示コーナー
- ・ 催し：お箏の演奏、ライブ、ヨーガ体験、銅駝美術工芸高校研究発表、講演
絵画コンクール表彰式 等

参加者：約1,400人（4日間）

③ 第32回 視覚障害者京都マラソン大会

概要

開催日：平成27年2月8日（日）

会 場：西京極総合運動公園陸上競技場及び周辺道路

参加者：7名（洛西寮）

成果

新しい利用者の参加をはじめ、全員が完走した
今年度も地域のボランティアの伴奏協力が得られた

課題

練習時間・手引不足

天候不順による練習不足

実績

洛西寮利用者の順位

3 km 男子全盲の部：8位・9位・11位・14位

1 km 女子弱視の部：4位

1 km 男子全盲の部：8位

1 km 女子全盲の部：6位